



学校法人神奈川歯科大学 理事長
鹿島 勇

復旧と復興を同時に進めてきた大学再建は、3年を経て新たな局面を迎えることとなります。再建は、平成22年の年明けと同時に開催した、教職員全員参加のFDから始まり、大学再建という大義のもと、分裂、

破壊、創造を繰り返す厳しい改革となりました。その間、各年頭の標題を「改革元年」、「再生から創造」、「創造的進化」と題し、年ごとに反省と次なる抱負を述べてきました。

4年目の今年は、文部科学省の経営指導対象法人から解放され、補助金減額法人からも脱却する特別な年となります。本学のビジョンは、未来につながる財政基盤、貢献が報われ誇りある労働環境、歯科を核としたグローバルな教育・研究、国内

外のニーズに応える高度先進医療、これらを基軸とする「健康長寿社会を支えるプロフェッショナル組織」です。今年、この右脳の発想から描いた未来構想図を、左脳のプロセスを通し具現化するための新しき旅立ちの年となります。

その具現化は、理事会、教職員のみならず、同窓生、在学生をも含めた全ての英知を結集し、現実的な形へと共に創りあげる、すなわち「共創」していかねばなりません。

休学・留年・退学者を出さない教育イノベーションとそれに伴う組織再編、まじめに働いた人が正しく評価される新しい報酬制度とその基盤となる評価制度、風評被害を払拭し、正しい情報伝達を目的とする同窓会との新たな関係構築等が当面の課題となります。当然のことながら、3年間の総括も忘れてはなりません。

本学は4年目にして「共創元年」と新しい時代の幕明けを迎えます。

共創元年 新年明けましておめでとうございます。

【教育イノベーション】

文部科学省は、歯学教育の改善方策として、講座や分野の壁を越えた体系的な教育の実施と、そのための専門教員の配置を推進しています。各大学も、この方針に基づいたカリキュラム変更を試みますが、多くは講座間の壁を越えられず、最終的に再度元に戻したことを耳にします。本学も、数年ごとにカリキュラム改訂を行ってきましたが、その場しのぎの小手先の対

応に過ぎなかったといえます。

講座の名前が、そのまま履修科目となっていた講座主導型の教育では、十数回の講義あるいは実習を受けた後、試験によって講座ごとに合格が判定されてきました。本学は、この講座完結型の教育に終止符を打つことにしました。そこで、講座制を中心とした教授会主導の教育から脱却するため、教育を専門とする総合教育部を設置しました。その部署で、入学から卒業

までの講座にとらわれない体系的な歯学教育プログラムを立案します。立案したプログラムの実行に必要な科目、分野、領域、項目を横断的、縦断的に当てはめていきます。そして、職階にとらわれない適切な教員が、講座の壁を越えてその実行プロセスに参加する教育形態に変わります。

歯科医学の修得を志し、真面目に講義や実習に対峙している学生の中から、留年者、休学者、

退学者が出るとすれば、それは大学の教育に問題があることとなります。この教育イノベーションの本質は、多様化する学生に即応した教育手段の新しき組み合わせと結合であり、決して従来の教育方策を全否定するものではありません。他校が成しえなかった教育イノベーションの成功は、教職員の教育に対する熱意と意識改革から始まります。

【真の意味の対価とは】

本学の将来ビジョンを支える柱として、「未来に繋がる財政基盤」と「貢献が報われ誇りある労働環境」が提唱されています。新しい報酬制度の策定は、

この基軸に直接関与し、他の軸である教育・研究そしてグローバルイノベーションにも間接的に絡み合ってきます。まさに福沢諭吉の言う「財の独立なくして学の独立なし」です。

本法人の新しい報酬制度を検討するとき、人事院勧告を一つの参考にするべきです。人事院勧告とは、国家公務員と民間との賃金格差を調整するためのしくみであり、それは毎

年変更されています。したがって国家公務員の給与は、民間の平均的給与基準を表しており、その年の社会的経済状況が反映された報酬制度とみなされます。

本法人の給与体系も、この人事院勧告に準拠してきましたが、平成10年度を最後に取りやめました。その後の人事院勧告では、基本給の勧告率の見送りや大幅な減率が行われています。さらに、平成17年度には、公務員に対する評価制度が導入され、勤務成績に基づいた

昇給制度がすでに施行されています。一方、人事院勧告への準拠を取りやめた後の本法人は、数々の矛盾を抱えた給与体系のまま時代の趨勢から取り残されていきました。

この失われた時間を取り戻すべく、私達は、「報酬」という名の定義を再度確認し、改定の

必要性を認識し、新しい制度の仕組みを理解し、無理のない導入工程を立案し、そして実行に伴って派生してくる諸問題を解決しながら、成功へと導いていかなければなりません。さらに、報酬と評価をリンクさせたこの制度が殺伐としたものにならぬよう、教職員が納得いくまで共

創していく必要があります。

この新しい報酬制度策定の大義が、大学の永続性の担保に基づく教職員の雇用確保と、その家族の生活保障にあることは言うまでもありません。

【新たな絆の構築】

昨年5月、本学同窓会近畿北陸地区の支部連合会を皮切りに、東北地区、北海道地区、関東地区、中国・四国地区そして10月の九州地区において、大学の経営状況を説明させていただきました。とりあえず、6分割された全国の同窓会支部連合を駆け回ったこととなります。目的は、本学がファンドの不正投資によって巨額の損失をだし、「経営破綻を来して倒産する、身売りする、横浜研修セン

ターを売却した、子女を入学させても卒業までもたない等」の風評被害の払拭です。

新執行部が発足した平成22年度以降、再建のための戦略や改革の現況、決算の変遷等を学内新聞で詳しく報告してきました。にもかかわらず、未だに払拭されていないことに改めて驚きを感じます。活字も情報伝達手段の一つではありますが、一方通行であり自己満足の感を否めません。それに対し、生の声による対面方式の説明会は、多く

の質問を受け、それに応えることによって、改革現場の臨場感を感じてもらえます。そして、何が真実であるかをその場で個々が直接判断することができます。

本学と同窓会執行部との交流はあるものの、個々の会員との直接的な接点はありません。会員への情報伝達は、そのメッセージ的役割を担う支部長の責務と考えます。それ故、会員にとって各支部長による地元での説明が、生の情報源となりま

す。しかしながら、必ずしも各支部長が同じ情報を共有しているとは限りません。正しい情報伝達を目的に、本学と支部長との新たな関係構築が必要となります。

50名近くいる支部長への直接的な情報伝達の場合は、すでに私の頭の中で完成しています。同窓会長と協議の上、今年中に実行するつもりでいます。

【3年間を振り返る】

平成22年の改革元年から共創元年を迎えるまでの3年間、教育・研究キャッシュフローと帰属収支差額の黒字化との戦いでした。この2つを制することが、本学生き残りの証となりますが、その時間的な猶予には限界がありました。目標達成は、教職員が同じベクトルを共有すべく、「錦の御旗」となる本学の未来化構想設計図を描くことから始まりました。同時進行で、再建のための現実的な数々の超短期戦略を掲げ、厳しい状況の中でそれらを実行してきました。その結果、文部科学省の指定する14段階（A1～A3、B0、B1～B4、C1～C3、D1～D3）の経営判断指標の内、A1～A3ランクへの本年度格上げが確実に見えてきました。

そのために実行してきた改革の中でも、未だ万感胸にせまる

改革は、歯科技工専門学校（技専）の廃校と短大ヒューマンコミュニケーション学科（ヒューマン）の廃科そして退職勧奨です。そこには、気持ちの上で「一個人」とそれに附随する「家族」が、心理的に複雑に絡んでくるからです。2部門の廃校・廃科はすでに平成20年12月の旧理事会にて決定し、公示されました。当時の記録によると、技専は定員割れによる不採算部門の整理でした。一方、ヒューマンは、長期に渡る不採算部門であると同時に、専門性が曖昧であり、特別な資格取得が卒業要件となっていないことから、医療に特化した法人を目指す本学にとって存在意義が薄いとの理由でした。その時点で、技専の教員は専攻科を改組して病院附属組織とする方針でした。ヒューマンの教員については、一時期、学科改善案や特任教員制度等が

検討されたものの、廃科を迎えることになりました。これまで、廃科後に残った教員の処遇は、専門領域に関係なく教員として他科への異動を繰り返してきました。しかし、学生がいなくなれば授業料と補助金は無くなり、その一方で人件費は膨らみ経営を圧迫します。これでは何のために廃科したのか意味がありません。しかも、学生のための教育カリキュラムであるべきものが、まず教員ありきのカリキュラムとして組まれることになりかねません。そこには、定められた講義時間数の消化を優先し、教員としての補助金獲得の思惑が瞥見されます。経営的、教員の面からも、誰かが、どこかで、この繰り返しの終止符を打たなければなりません。

これらの経緯を経て、平成23年度をもって技専とヒュー

マンの教員は全員去っていくことになりました。また、定年を迎えることなく退職勧奨によって多くの教職員が去りました。改革に犠牲はつきものとはいえ、そのプロセスを振り返った時、退職勧奨を含め反省すべき点多々あります。しかし、改革は、形を変えて今後も続けていく事になります。避けて通れない、厳しい決断を迫られる想定外のことも発生します。その時、十分な説明は当然のことですが、何よりもそこに「正義」がなければなりません。その事を改めて実感させられる3年間でありました。

同様な経験をしてきた知人から「夷険一節」と書かれた色紙が届きました。“ぶれる”ことなく貫き通すという意味です。決して“ぶれない”ことを自分に誓いながら理事長として4回目の新年を迎えます。



神奈川歯科大学・湘南短期大学 学長
佐藤 貞雄

新年明けまして おめでとうございます。

神奈川歯科大学における教育改革

神奈川歯科大学は今、教育の大改革に取り組んでいます。改革の趣旨は、体系化した学位プログラムと学生にとって着実で無理のない学修プログラムの構築です。本稿では紙面の制限があるため教育改革の大綱について述べることにします。

大学が抱える課題：ユニバーサル化

日本における高等教育のユニバーサル化（大衆化）は、アメリカのように福祉国家政策として計画的に実施してきたユニバーサル化とは根本的に異なり、大学教育を戦後日本の近代国家への参入政策の一貫として位置づけ、短期間に就学率が急増し、政策的に大学の収容力を大きく拡大させたあとに18歳人口が急減するという国の政策的対応の遅れによって、いわば突然やってきた課題です。国は平成20年以降、矢継早に大学改革案を提案し、また平成24年6月には大学改革の実行プランを打ち出し、平成25-26年度を改革集中実行期として大学教育の質の転換、質保証の徹底促進を求めています。神奈川歯科大学の教育改革の実態はどうであったか。これまでいく度となく実施されたFDは教員の啓蒙やカリキュラム構築の基本を学ぶといったレベルに留まっており、残念ながら学士課程教育そのものの実質的改善には結

びついていません。過去数年間、退学者、休学者の数が急増していること、留年者の割合も増加していることから、本学の教育力が改善したとは言い難い状況にあります。神奈川歯科大学はいま内在的な要因からも、また外部的な要因からも教育の全面的な見直しに迫られています。

歯学部教育の課題

平成21年 歯学教育の改善充実に関する調査協力者会議は、歯学教育の改善方策として次の4点を指摘しています。すなわち、①歯科医師として必要な臨床能力、②優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育の実施、③歯科医師の社会的需要を見据えた入学者の確保、④未来の歯科医療を拓く研究者の養成です。歯学部学士課程教育の体系化の目的はここに示されているように優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育への変換ということです。これらの当然とも言える目標が達成できず現在の低迷を招いたのは教育者側の責任です。平成24年4月に開催した本学教員FDにおいて、教育力が伸びない大きな理由の一つとして教員の努力や質の問題が挙げられていました。しかし、それは教員の質の問題ではなく教育の仕組みが悪いのです。すなわち、連携の取れていない講座主義教育に問題がありました。このような仕組みの中ではいくら心ある教員が個人的に努力しても総合的教育力への貢献は微々たるもので結局効果は上がりません。国は、2007年大学設置基準を改正し大学が柔軟かつ機動的な教育研究の展開を実現することと教員組織の多様化の趨勢などの観点から、大学組織が講座制または学科制を原則とするような趣旨の規定を削除し、具体的な教員組織の編制は、各大学において教育研究の活性化が図られるよう自由に設計できることに変更しました。同時に、教員組織の見直しによって、若手教員の柔軟な

発想を活かした教育・研究活動の展開を目的として新しい職階（准教授、助教）に変更し、大学が活性化することを求めました。これらは平成20年以降に次々と打ち出される大学改革の具体的な施策への布石であったことが分かります。学士課程教育の体系化という課題は、単にカリキュラム上の課題ではなく、本質的に教育組織そのものの転換が求められていると解釈しなければなりません。すなわち、表面的な見せかけの改革を求めているのではなく、硬直化した講座制主義教育から連携体制のとれた組織的な教育システムによる体系化した学士課程教育への転換を求めているのです。本学教授会において教育の問題は、いく度となく議論されてきましたが、教育改革の具体案の提案や改革行動に向かうというところまでには至りませんでした。教授会という組織は、その意味で教授個人の局面的な意見は出されますが、教育全体の改革については実行力のない組織でありました。その一つ原因は、講座制という古い体質にあるといえます。つまり、講座制を破壊してまで改革するというエネルギーがなかったのです。結局、講座主義を守る体制の中からは統合的な改革案は出てきません。

神奈川歯科大学 2013 教育改革の骨子

平成20年12月の中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」のなかで、全学的な教学マネジメントのもと、教育課程の体系化、教育方法の改善、成績評価の厳格化、教員の教育力の向上、学修成果の把握などに総合的に取り組み、学士課程教育の質的転換を図ることが提言されています。高度専門職業人としての歯科医師のイメージをもって入学してくる学生にあれもこれもの出店主義的教育は適しません。カリキュラムというのは課程教育のヒエラルキーのことであり、歯学部の学生はおぼろげなが

ら将来像が分かっています。それをカリキュラムによって焦点の合った形で見えるようにすることが教育上の重要課題です。到達目標の歯科医師像に向かって深く掘りこんでいく、深い経験という教育モデルにこそ学生は目覚めるのです。カリキュラムは、人材育成という課題を多面的に展開したものであり、全ての科目が緊密に横連携と縦連携を持つように配置され、極端に言えば全科目で一科目というように構成される必要があります。また本学の教育によって歯科医療分野で自立した専門職業人になるためには、どんな知識や技術（コンピテンシー）を体得していなければならないのかを明確に示すものでなくてはなりません。カリキュラムは、これらの課題を具体的な技術指標や知識指標の中に構築しなければなりません。どんな課題をどんなふうに学ばせれば創造性や柔軟性、問題発見・解決能力の開発に繋がるのかということがカリキュラム開発の眼目です。

これらのことを展開していくためには、歯学教育課程を徹底的に分解して組み立てなおす作業が必要です。この過程は、新たな学士課程教育を構築するために避けて通れないステップです。これを実際に実行するのが新たに立ち上げた総合教育部です。これまでの講座分野は大学院に移行し（大学院重点化）、学部の教育に関わることはすべて総合教育部で行うこととなりました。

新たな大学としての出発点

湘南短期大学は、平成25年度より神奈川歯科大学短期大学部として統合されることとなりました。これによって歯科衛生学科、看護学科は歯学部歯学科と共に医療系大学として教育研究に関して共同歩調で歩むこととなります。神奈川歯科大学は平成25年度から歯学部のカリキュラム改革と共に学部の再編という新たな体制で新たな道を歩みだすこととなります。



附属病院病院長
小林 優

新病院の設立に向けて

新年、明けましておめでとうございます。

本学は不正投資問題によって平成20年から5年以内の経営改善が義務付けられました。黒字化の見通しが全く立たない中で、平成22年に執行部が刷新され現在の改革路線がスタートした訳

ですが、皆様の御協力の甲斐あって、教育研究キャッシュフローを2年連続で黒字化することができました。その結果、経営指標はB2評価（イエローゾーン）からA3評価（正常状態）に昇格し、本学は減額法人の汚名を返上できる見通しとなりました。特に医療スタッフの奮闘は目覚ましく、平成23年度収支（対前年度比）は、医療収入が約12.2億円（+0.8億円）、人件費が9.9億円（+1.4億円）、業務委託費が1.4億円（-0.6億円）、消耗品費が0.2億円（-0.4億円）で、当初の計画より1年早く、開業以来初の黒字化（+400万円）を達成することができました。これも一重に皆様方のご尽力の賜物と感謝申し上げます。

経営改革の第一段階は、主に経費削減によって一応の成功を収めました。しかし、我々の眼前には「入学生の減少」というより深刻な問題が横たわっております。急激な少子化と長引く不況は、歯学部間の学費値下げ競争を生みましたが、帰属収入の大半を学納金に依存していた本学は、価格競争に追従することはできません。さらに、近年の国家試験合格率の低迷は、入学生の減少に追い打ちをかけています。また、施設老朽化の問題も深刻で、本院の修繕費は年々増大しています。こうした状況を打開するためには、本学が教育・臨床・研究のすべての面で真に効率的で生産性の高い組織に生まれ変わる必要があります。

そのために現在、理事長を中心とする人事制度改革（評価制度の導入）、学長を中心とする教育改革（教育のセンター化）、研究科長を中心とする大学院改革（研究のセンター化）が進められております。そして本学附属病院でも平成27年度に予定していた新病院設立を1年前倒して進めることと致しました。新病院のコンセプトは「安心・安全」で「専門性の高い歯科医療」の提供と「地域社会への貢献」です。間もなくそのための準備作業に入る予定ですが、学納金に依存することなく自立できる組織となるためには、皆様のご理解とご協力が必要です。何卒、宜しくお願い申し上げます。



横浜クリニック 院長
井野 智

「平成25年（巳年）を迎え、新・横浜クリニックの幕開けに向けて」

新年、明けましておめでとうございます。

昨年、10周年を迎えた横浜クリニックは、あらゆる無駄を削ぎ落とし、筋肉質な経営基盤にするため、外部業者への固定経費削減に取り組み始めました。もちろん、約3年前頃から着手された急激な経営再建への取り組み

は、既に大きな効果をもたらしていましたから、昨年の取り組みは、更なる改革ということであり、横浜クリニックのスタッフの皆さんにとっては一段と厳しいものだったかもしれませんが、その効果は着実に現れています。

一方で、「最新医療の提供と患者サービスの向上」を信条としてきた横浜クリニックとしては、開設当初に導入した医療設備も10年定額の減価償却を完了することを見据えて、新たな戦略を立て、舵を切り始めなくてはなりません。眼科のレーシック手術を支えてきたエキシマレーザーは、その役目を終えて廃棄処分となり、そのスペースは、健診患者さんのプライベート確保のための待機応接室として整備されつつあります。また、新任の渡邊特任教授を中心に昭和大学・医学部

附属病院から専門医チームを迎え入れて「消化器内科」を開設し、最新の上部・下部内視鏡（NBI）を導入しました。全身撮影用X線CT装置（2列）も、本年1月から、低被爆機能で高画質の新機種（16列）に切り替え導入して、医科・歯科の健診部門の強化を図っています。

また、昨夏、1階の売店は、患者さんサービスの一環として移設し、LED照明で明るくなった店内に専任の店員さんを擁した「コンビニ」へと生まれ変わりました。コンビニの誕生とともに、診療科スタッフが発行する院内専用の「(通称) 歯ブラシ処方箋」が功を奏して、患者さんに好評なだけでなく、想定を超える売上実績にも結びつくようになりました。また、患者さんが両手で蛇口の水をすくって口をすすいでい

た待合室の洗面台には「紙コップ」を設置するなどし、クリニックのスタッフ全員で、患者目線でのサービス改善を心がけています。

十二支の中の「巳」は、漢書（律曆志）では「止む」の意味の「巳」とし、草木の生長が極限に達して次の生命が作られはじめる時期と解釈されているそうです。11周年目に入った横浜クリニックは「新・横浜クリニック」の幕開けに向けた準備を少しずつ、そして、着実に進めているところであり、皆様のご支援を賜りながら、巳年にふさわしい1年となるよう心より願っております。私事ながら、巳年生まれのも、年男として新年を迎え、心機一転、更なる精進を誓い、心を新たにしているところです。

発展の年を迎えて



法人事務局長
峯村明彦

新年明けましておめでとうございます。

昨年本法人は、教職員の努力があって経営改善5カ年計画を完結いたしました。平成25年は“発

展の年”とすべく年頭に当たり今後の方針をご説明いたします。

昨年3月に日本私立学校振興・共済事業団の「私学の経営分析と経営改善計画」が改訂されました。定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分もA1～D3までの14段階に区分されるようになりました。本法人は、この評価で平成23年度はB2のイエローゾーンでしたが、平成24年度は一気にA3の正常状態に区分されるま

でになりました。これもひとえに教職員一同が危機意識を共有し、無駄を省き効率性を求めつつと努力した賜と理解しております。6月には、政府の国家戦略会議をうけて文部科学大臣が“大学改革実行プラン”を提唱しました。その中の一つとして、財政基盤の確立とメリハリのある資金配分の実施「私学助成の改善・充実～私立大学の質の促進・向上を目指して～」があります。高等教育の約8割を担う私立大学に対して、メリハリのある予算配分がなされよ

うとしています。今後は、今まで減額法人として申請が出来なかった耐震補強や留学生対象の補助金、その他申請可能な補助金の獲得、税額控除対象法人としての申請などを実施していく方針です。

また、平成25年度は、「貢献が報われる労働環境」を充実発展させるために評価・育成制度の導入（事務職員に先行導入）と新報酬制度への移行を実施すべく取り組んで参りますので、教職員の皆様方のさらなるご協力・ご支援をお願いいたします。

年頭のご挨拶



神奈川歯科大学 同窓会長
大館 満

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしく願い申し上げます。皆様には日ごろより同窓会活動に対しご高配を賜り心より御礼申し上げます。大学は一昨年、昨年と財務の実質黒字化を達成し、現在は受験生確保に重きを

置いております。同窓会としても受験生確保への協力は執行部一丸となって取り組んでおります。本来の同窓会会務とは異なり不慣れではありますが昨年6月の青森を皮切りに10月までに鹿島理事長、あるいは佐藤学長とともに全国の同窓会6ブロック総会と一部支部総会に参加し、大学の現状を詳細に説明して参りました。風評被害を防ぐ意味で大学の経営状況は大変重要で偽りのない現状を各支部長、役員の方にお伝え出来たことに安堵し、ご協力いただいた方々

に心より感謝いたしております。

さて、昨年末、衆院は何とか解散になったものの民主党の政権延命にエネルギーを奪われただらだと政治不在の日々が続いてまいりました。このような状況では歯科界のみならず日本の将来へ大きな不安を感じております。もう一度国民の目線に立ちがばっていただきたいと思っています。

次に、同窓会の運営については執行部一丸となり遅滞無く進めております。また同窓会改革については昨年度、今年度と2年、改革のための特別委員会を設置し活発な協議が行われています。

代議員会等の節目で報告させていただきます。

現在、大学はAO入試に始り年が明け一般入学試験へと準備を整えております。今年こそ明るい兆しがみられる事を期待し、先の見えない歯科界、そして不安定な政治の中で、この難局を皆様とともに乗り越えて行きたいと考えております。皆様には今後とも旧に倍して神奈川歯科大学、ならびに同窓会に対しご高配とご指導、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。本年も皆様とご家族のご多幸とご健勝を心より祈念して年頭のご挨拶とさせていただきます。

新たな門出に



湘南短期大学 同窓会長
名取すみ子

皆様方には良き新年をお迎えになられた事とお慶び申し上げます。日頃より湘南短期大学同窓

会に対しご協力、ご支援いただき厚く御礼申し上げますと共に、改めまして本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は「東京スカイツリー」「塩麴」等が注目を浴びました。私はまだ「東京スカイツリー」には登っていませんが、なぜこんなに人気があるのでしょうか。世界一の電波塔だからでしょうか。登って

広がる景色を見たいからなのでしょう。どちらも正解だと思います。「東京スカイツリー」の魅力は何だか大学に求められているものと同じような気がいたします。どこからでも見える、見たい、見ると嬉しい、上まで登るとどんな景色か期待する。「塩麴」これも今、初めて注目されたものではなく、日本の伝統的な調味料で昔からあったものが今見直され、脚光をあびているものです。

私たちの母校もこれから校名変更という大舞台が待っています。伝統ある母校の名前が代わるということはこれから益々発展することを意味しています。伝統、歴史の中で養われた財産は同窓生の共有の財産です。私たち同窓生にとりまして今年も新たな門出です。新しい年がより良い年になりますよう心から祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

国際歯科連盟(FDI)2012年次世界歯科大会にて FDI Poster Awardを佐藤武則先生が受賞

平成24年8月29日(水)から9月1日(土)の4日間にわたり、FDI (Fédération dentaire internationale:国際歯科連盟)Annual World Dental Congressの第100回記念大会が香港にて開催され、感染制御学講座微生物学分野特別研究員 佐藤武則先生がGeneral Dentistry and Oral Health部門でFDI Poster Awardを受賞した。受賞演題“Peptidoglycan of Actinomyces naeslundii enhances osteoclastogenesis in alveolar bone

resorption”は、口腔常在菌である Actinomyces naeslundii の細胞壁主要成分であるペプチドグリカンが破骨細胞分化誘導能、骨吸収能ならびに炎症性サイトカイン産生能を有し、歯槽骨吸収を誘導する病原因子であることを解明したものである。歯周病

におけるグラム陽性菌の関与を提唱した佐藤先生の更なる研究の発展が期待される。

の各人です。今後のさらなるご活躍を期待いたします。



小松知子先生が日本障害者歯科学会 でW(ダブル)受賞

神奈川歯科大学学生体管理医学講座障害者歯科学分野の小松知子講師が、第29回日本障害者歯科学会総会(平成24年9月29日)にて優秀論文賞を受賞いたしました。論文名は「自閉症患児における歯科診療導入ビデオによる

視覚支援の有用性について」で、執筆者は小松知子、小菅祥子、宮城 敦、芳賀 定、緒方克也の各先生、雑誌名は障害者歯科、第32巻第2号、97-103頁、2011年です。

また、同学会閉会式(平成24

年9月30日)で第29回日本障害者歯科学会学術大会優秀発表賞も受賞いたしました。演題名は「唾液ヒスタチン5含有量と Candida 菌分離頻度および口腔内所見との関連性-若年ダウン症候群患者における検討-」で、発表者は小松知子、植田郁子、坂本貴史、伊藤 愛、中村ミゲル、村井朋代、井田侑子、池田正一、宮城 敦、浜田信城、李 昌一

の各人です。今後のさらなるご活躍を期待いたします。



文部科学大臣表彰 受賞

文部科学省では、医学教育等関係業務において特に功績顕著な方々に対し、文部科学大臣表彰を行っており、今年度受賞者に附属病院前衛生士長相良恭子さんが選出され、平成24年11月22日(木)にホテルフロラシオン青山にて表彰式が行われました。相良さんは日本女子衛

生短期大学保健科(現湘南短期大学歯科衛生学科)をご卒業後本学附属病院に入職され、平成24年9月に退職されるまで44年5カ月間勤務されました。その間、歯科衛生士業務の他、大学附属病院が持つ大きな役割である地域貢献や学生教育にも大きな役割を担っていただき、附

属病院の発展にご尽力されました。また、外部機関では日本歯科衛生士会代議員、臨床歯科委員、神奈川県歯科衛生士会学術・研修担当、横須賀支部長、理事、全国歯科大学・歯学部附属病院歯科衛生士連絡協議会委員などを歴任されました。このようなご功績がこのたび

認められ受賞となりました。相良さんのますますのご活躍を祈念いたします。



職業体験

—将来の夢は歯科医師!—

附属病院では横須賀市や近隣の地域貢献の一環として平成18年から小・中・高校生の体験学習を受け入れてまいりました。平成24年度には5校(諏訪小学校・常葉中学校・公郷中

学校・金沢中学校・静岡聖光学院高校)約30名の小中高校生が附属病院で歯科医業の職業体験を行いました。最初は緊張気味の生徒さんも帰るころには笑顔で将来の夢として「将来この大学で学びたい」と語ってくれ

ました。附属病院では「患者様に安全でやさしく、質の高い医療を提供する」とともに、「人間性豊かで有能な医療人を育成する」ことを理念として掲げています。この体験学習を通じて歯科医業を理解し、一人でも多くの医療人が誕生することを願っております。是非、近い将

来、神奈川歯科大学のキャンパスで会いましょう!



石膏で目玉焼きを作成

帰宅困難者対応訓練の開催

平成24年9月29日(土)、本学体育館において、連合神奈川三浦半島地域連合主催、横須賀市共催による帰宅困難者対応訓練が実施されました。本学体育館は、昨年9月に横須賀市との間で防災協定を締結し、大規模災害発生時に生じる帰宅困難者の避難場所とする事を定めており、今回の訓練はその一環です。

法人はこの訓練が土曜日に実施される事を考慮「休日における震災対応」とし、理事長はじめ危機

管理・防災・セキュリティ各委員・総務課の教職員26名が出勤し、市訓練に沿った地震発生時刻に合わせ独自の避難訓練と防災に関するミーティングを開催しました。訓練は11:30分震度6強の地震発生、連合神奈川所属会員様約200名が市内各3箇所より京急横須賀中央駅を目指し、運行再開の目途が立たない想定



あり、本学における指示命令システムの構築に良い見本となりました。

危機管理課部長による訓練の講評・市の方針、連合神奈川様による主催者の挨拶、本学からは鹿島理事長が挨拶され、定刻の13:30分、初となります訓練は無事終了致しました。



動物フェスティバル神奈川2012inよこすか・みうらの開催

10月14日(日)学内において(社)神奈川県獣医師会、神奈川県、市、町、動物愛護団体主催の動物フェスティバルが開催されました。同イベントは毎秋県内各所持ち回りで開催し、本年は横須賀市・三浦市の獣医師会で構成される(社)神奈川県獣医師会横須賀三浦支部が担当となり「中心部で相応の場所」という開催地候補に本学が上がり、地域貢

献の一環として快諾致しました。式典は長寿動物の表彰式と各受賞式を執り行い、屋内外のイベントは県内98の団体・企業が集まり、本学として過去に類を見ない大規模なものとなりました。当日は朝からどんよりとした空模様で、昼前には小雨が混じるあいにくの空模様にも関わらず、開始前より多くの人で賑わいました。特にお子様連れの方が目立ち、動物とのふ

れあいコーナー・ポニーの乗馬などには長蛇の列でした。また、式典では小泉進次郎衆議院議員の登壇に盛り上がりを見せました。

法人はこのイベントに「無料歯科診断」を実施、メイン通路にブースを構え販促品も充実させ万端整えました。受診者数に不

安を抱えておりましたが蓋を開けてみると延べ150組の方に受診頂き、大変好評を博しました。午後に入り雨脚が強くなり、肌寒い陽気に入場者は若干鈍りましたが、それでも4,200名(主催者発表)が来場し、大きな事故もなく大盛況で幕を閉じました。



第7回神奈川歯科大学白菊会総会及び懇親会

平成24年10月13日(土)に白菊会第7回総会並びに懇親会が執り行われました。

式典には、ご遺族様・会員様・教職員・2年生ら、総勢235名の方々にご参列賜りました。冒頭、本学にご献体賜りました1,798柱の御霊に黙祷を捧げそのご冥福をお祈りいたしました。白菊会役員金子様の開式の言葉に続き、本学を代表して佐藤学長と高橋(常)教授よりお言葉を頂戴し、2年生代表木村裕次郎さんと片桐

法香さんから、解剖実習の体験と感謝の言葉が語られました。

次に、本年度解剖実習にご献体賜りました6名のご遺族様より「献体への遺族の想い」と題し、学生達に向けてお話を賜りました。

この後10分間の休憩をはさみ、社会歯科学講座准教授の山本龍生先生より「大規模調査から見てきた歯と全身の関係」と題した講話を賜り、続いて文部科学大臣からの感謝状をご遺族様9組に佐藤学長から手渡されました。

その後、神奈川県茅ヶ崎市保健福祉課長で本学7回生の福田順一先生と80-20運動推進員の方々をお招きし「湘南口体操」の実演が行われました。10分間の準備の後、特任教授の中村澄夫先生のご挨拶、峯村事務局長より献杯のご発声を賜り、懇親会が執り行われました。事務局からの連絡事項の後、今回、昨年に

発足した「神奈川歯科大学白菊会友の会」の皆様による「合唱」披露を行いました。ヨコハマロビンス様の生演奏で、皆様が良くご存知の4曲を熱唱致しました。

今回は大変な長時間となりましたが、次回諸霊供養の会でのご再会を確認し、午後2時10分、第7回白菊会総会は無事終了いたしました。



神奈川歯科大学公開講座

「ケガ予防のための、自宅でできる体型チェック～自身の関節の硬さを知ろう～(講義と実習)」

講師：体育学・川上正人准教授：10月18日(木)

当日はあいにくの雨天で16名のキャンセルがあり、36名が出席されました。実技が主なので受講者の方は大変分かりやすかったようです。実際に身体アラ

イメント・関節弛緩性・筋萎縮の観察を行いバランスのとれた体型をしているかチェックするもので、川上先生お手製の測定器を使い肘関節の外反角度などを測定しました。お土産に測定器を持ち帰ることができたいへん好評でした。この講座は今回3回目の開催で毎回参加される方が多い人気の講座です。



「お口の健康で健康寿命を延ばそう」

講師：歯周病学・出口真二教授：11月8日(木)

49名の方が参加されました(申込64名)。内容は歯が多く残っている方が健康寿命も延び、う蝕と歯周病の原因、症状、対応法などを分かりやすく話されました。特に歯周病は、軽度では症

状が出現しづらく、糖尿病や虚血性心疾患など全身に及ぼす影響が高いことなどを強調されました。また、具体的な歯ブラシやフロスの仕方も伝授され、講演終了後も数多くの質問があり、先生が推薦された歯ブラシと液体歯磨剤が病院売店で飛ぶように売られました。



特別記念講座：メインテーマ「歴史を通じて学ぶ —古代の顔・現代の顔そして未来は—」

10月28日(日)

神奈川歯科大学公開講座開始から15年目に当たる今年は、特別記念講座を開催しました。この企画は解剖学の高橋常男教授により実現したものです。休憩時間は、ボランティア芸能一座フルーツバスケットの和泉桃子さんによる素晴らしい電子ピアノ演奏がありました。なお、座長は本学出身の熊坂さつき先生(駒澤大学教授)、座長補佐は歯学部2年生木村裕二郎君でした。その他に多くの学生有志がお手伝いしてくださいました。また、会場には、歯科治療に関する模型展示、頭部・骨格などの模型標本展示、図書展示などのコーナーも設けられました。後援は横須賀市歯科医師会、同医師会、同薬剤師会、

神奈川歯科大学同窓会で、その他数多くの団体や企業などの協賛により開催が可能となりました。

「顔から探る日本人の起源

—縄文 VS 弥生— 講師：馬場悠男先生(国立科学博物館・名誉研究員)

日本人の起源は1万5000年前から日本列島に住んでいた彫りの深い顔の縄文人と2700年前以降に大陸から渡来した平坦な顔の弥生人の混血により形成されたこと、その顔貌になった理由や軟らかい食物の弊害、未来の日本人の顔貌予想などについて講演されました。専門的な質問も出て質疑応答も長く続きました。

「アンコール遺跡に魅せられて —ローマからアンコールへ—」

講師：石澤良昭先生(上智大学・特任教授)

世界遺産の一つであるアンコール遺跡はクメール王朝の首都の跡でした。当時のカンボジアは交易の中心で、ローマ貨幣やインドの彫像などが発見されています。その広大な遺跡の発掘や復元に現地のカンボジア人の目を向けさせて、指導した様子を

話されました。また、当時は文字がなく寺院の壁画には過去、現在、死後の貴人の様子が描かれていたこと、王が死ぬと建築物の建設が中止され、新たな王はまた新しい建築物を建てたこととです。カンボジアは内戦が激しく遺跡も破壊されましたが、和平交渉は遺跡の中で行われ、その中で戦うことはなかったなどの話に感銘を受けました。(学術交流委員会委員長 宮城敦)



前列左から馬場悠男先生、石澤良昭先生

横浜クリニック公開講座

【3D映像と上手に付き合う方法】

近年はICT（情報通信技術）環境が大きく様変わりしています。パソコンはもとより、スマートフォン、ゲーム機器、電子書籍など新しい電子機器が次々と登場し、常時接続のために大人から子供まで目を酷使する環境にさらされています。さらに3D映画でヒットを記録した「アバター」

をはじめとして、テレビやパソコンゲームなどの世界に3D対応型の機器やコンテンツが次々と登場し身近な存在になってきています。映像の生体リスクとしては、近視の進行でしょう。パソコンやゲーム機器などを長時間操作すると、目に過剰な負担がかかる上に、スマートフォンや電子書籍などは、今までの紙の書籍以上に

目と画面の距離が近い状態で操作するため、近視を助長します。次に目の痛みや頭痛、めまいや肩こりなどの原因となる眼精疲労も心配です。では生体リスクを減らした上で3D映像を楽しむにはどうしたら良いでしょうか。1) 画面の高さの3倍程度離れた適切な視聴距離を保つ。2) 1日2時間以上の視聴は控える。3) 目のチカチカや疲労を感じたら、すぐに視聴をやめて休憩を取る。4)

斜視になりやすい素因の方、片頭痛の方は、3D映像の視聴は控えるべきです。また教育現場でも3D映像の導入が検討されつつあります。生まれつき立体視の弱い学生がいるので、3D映像を用いた授業の中で差別やいじめを受けないよう十分な配慮が必要です。

（眼科学教授 原直人）

KDC株式会社の現況について

最近、複数の人達から“KDC株式会社って何をやってるんですか？”という質問を受けました。未だに、当社は学内の人から不審な存在として見られているように思われます。そこで紙面をお借りして、KDC株式会社の現況を紹介させて頂きたいと思えます。

KDC株式会社（資本金900万円）は神奈川歯科大学の100%出資会社として平成18年12月1日に設立されました。設立の趣旨は学校法人に代わって営利事業を行い、その収益を学校法人に還元することにより、学校法人の本来の事業を側面から支援す

ることにあります。しかし、設立から4年間（平成18年12月～22年9月）の経営状態は、収支がほぼ均衡で利益が上がっていないにも関わらず、平成20年に大学へ300万円もの寄付を行ったため、平成22年9月の決算では、株主資本が639万円に減資してしまいました。そこで、当時の経営陣は総退陣をして、平成22年11月に現執行役員が経営を引き継ぎました。当初の経営方針は赤字脱却を目指して、支出の抑制を柱にそれまで行ってきた事業の見直しを行うと共に新事業への取り組みを始めました。幸い1年で全ての事業が黒

字化し、平成23年9月の決算では、約1050万円の当期純利益を挙げ、株主資本を約1689万円にすることが出来ました。現経営陣にとって2年目に当たる今年度も売上利益が約4333万円（前年比6%増）が見込めましたので、前年度に行えなかった大学への貢献を実現する為、1月と9月に各500万円、計1000万円の寄付を行うと共に馬堀グラウンドのラグビーゴールポストの取り換えと4クラブの物置4棟（約160万円）を寄贈しました。尚、寄付後の当期純利益は約200万円でした。また、大学から委託されていた学内食堂の改善に関して、6月から2階の業者を1階に移し、2階には新たな業者「わさび」を入

れました。利用者の評価は値段やメニューの多様性あるいは料理の味や量などに関して様々ですが、概して以前よりは好評のように思われます。今後も学生モニターの意見を取り入れて改善を図っていくつもりでおります。現在、当社が行っている事業は1. 附属病院内売店事業、2. 自動販売機設置事業、3. 教科書・実習書販売事業、4. 学生寮・マリンハウス管理事業、5. 学内食堂管理事業、6. 生涯研修支援事業、7. 大学からの受託事業などですが、今後は「大学附属病院の物品管理」や「男子学生の為の寮の建設と管理」などを手掛けて行きたいと考えております。（代表取締役 梅本俊夫）

—馬堀グラウンド環境整備—に貢献!!

安心・安全・快適な学生生活を送るためのキャンパス環境整備の一環として、このたびKDC株式会社よりラグビーゴールポストと物置が寄贈されました。ラグビーゴールポストについては、塩害により老朽化が激しく、いつ倒れてもおかしくない状況でした。物置については、練習用具を保管する場所が確保されておらず、部室内に用具が散乱している状況で、馬堀グラウンドを使用する

4団体（野球部・サッカー部・ラグビー部・アメリカンフットボール部）に1棟ずつ寄贈されました。ラグビーゴールポストを寄贈されたラグビー部キャプテンは「本当に感謝しています。これで他大学のチームを呼び練習試合や公式戦ができます。」と喜びを語りました。寄贈したKDC株式会社梅本俊夫社長は「今後とも大学と連携して事業活動を展開し、大学の教育・研究の充実に寄与

し、より良い環境作りをサポートしていきたい。」と抱負を述べて

おりました。



NPO法人 神奈川歯科大学南東 アジア支援団(KDC-SAS)の活動

この特定非営利活動法人は平成16年12月のスマトラ沖地震による津波で被害を受けたタイ王国南部の被災地救済歯科医療活動を目的として平成17年6月に大学と同窓会が協力して設立致しました。3年間被災地に赴き住民6000人余りの治療と口腔衛生指導を実施しました。その後タイ国内各地に活動の場所を拡げ、更にフィリピン・ドマゲティエーの口唇口蓋裂手術支援活動、ラオス・ビエンチャン郊外の歯科医療活動を行ってきました。

平成24年度の活動は
①フィリピンの口唇口蓋裂手術支援活動(KDC-SAS以前より10年目の活動)、②タイ・プ

ケットの歯科健診・予防活動開始は7年前で現在では現地の幼小中・障がい者学校の幼児・生徒約1000名を継続して健診予防指導・成長発育の経過観察を実施、③タイ北部小中学校生徒・地域住民の予防指導、④東日本大震災被災地復興支援の継続、被災地の復興情報収集他。以上の様なボラン

ティア歯科医療には団員の献身的な活動・時間的・経済的な負担も多々ありますが、現地の方々の笑顔と健康になっていく様子

が何よりも励みになります。ぜひ皆様も参加致しませんか、そして新しい自分をそこで発見しましょう。(事務局長 平田宗善)



かもめのケイディ君誕生!!

神奈川歯科大学のイメージキャラクター“かもめのケイディ君”が誕生しました。

このケイディ君は本学提供ラジオ番組「Fm yokohama Un-factory (アンファクトリー)」の

DJでイラストレーター&ソラミミストでもある安斎肇(あんざいはじめ)さんが、本学をイメージして作成したオリジナルキャラクターです。

歯の形をした帽子をかぶったかもめのケイディ君

- ・翼に勇気を
- ・くちばしに愛を
- ・大きな瞳に未来を



《平成25年度より、神奈川歯科大学の英語表記が Kanagawa Dental University (KDU) となります》

本学歯学部学生らが 障害者の口腔衛生指導を施行

平成24年11月10日(土)横須賀市立総合福祉会館にて知的障害者のイベント「第24回横須賀・三浦地区ふれあい広場」(神奈川歯科大学・湘南短期大学協賛)が開催されました。今回も障害者歯科学の宮城 敦臨床教授の指導の下、4年生の有志(石井 滋、組田一恵、鈴木志帆美、

鈴木ひとみ、尹 榮浩、與儀賢)が参加して障害者の方々30名以上に、歯科相談、刷掃指導、歯科健診を行い感謝されました。学生諸氏にとっては、障害者も健常者と大きく変わらないことを、障害者にとっては口の清掃が楽しいことを少し学んだ1日となりました。



第1回神奈川歯科大学各科対抗フットサル大会

9月14日(金)に神奈川歯科大学附属病院・各科対抗フットサル大会が行われました。企画の目的として、フットサル大会というイベントによりコミュニケーションを深めることができ、それは仕事上でも影響してくるのではないだろうかという考えからの企画です。初の試みとなるイベントのため、参加者数に不安がありました。病院長の小林優先生、横浜クリニック院長の井野智先生の御尽力により、総勢

100名近くの病院関係者の方々にお集まりいただくことができました。全8チームを、2つのブロッ



クに分けて順位を決め、各ブロックの順位同士を対戦させる形式にしたところ、決勝戦は補綴科チーム vs 修復・歯内合同チームで行われ、見事に優勝したのは補綴科チームとなりました。当初の目的が今、少しでも日々の

仕事に影響を与えているとするなら、意味のある企画だったのではないかと思います。

なお、次回幹事は第一回優勝チームの補綴科となっております。沢山のご参加お待ちしております。

第48回 稲岡祭 ～ No Border Let's Action ～

10月6日(土)、7日(日)に、稲岡祭が開催されました。今年、歯科大、短大の垣根を越え学生会が一体となって作り上げる学園祭とし、各クラブやゼミから

24店もの出店数がありキャンパス内が賑わいました。

大学の特徴を生かし、本学歯科医師・歯科衛生士による「無料歯科検診」や看護師・看護学

科学生による「健康チェック」などが実施され、行列ができるほどの人気ブースとなりました。

6日には、稲岡祭初の「ミスター神歯コンテスト」で盛り上がり、さらに小島よしお、髭男爵が出演した「お笑いライブ」には通りがかりの皆さんも含め大勢の方々が楽しんでいました。翌7日には、

地元の小学生、高校生および本学学生によるダンスやFMヨコハマの公開収録があり、最後はMONGOL800のBass/Voによる「KIYOSAKU Special LIVE!」がステージで熱く繰り広げられ、興奮の中で終了しました。



初代ミスター神歯「歯学部1年矢野雄也君」



湘南短期大学戴帽式

平成24年9月15日(土)に湘南短期大学歯科衛生学科・看護学科の戴帽式が行われました。午前中の合同リハーサルの心配をよそに、午後から開催された戴帽式では歯科衛生学科生59名、看護学科生93名がみごとに絆を深め、決意を新たにしました。

まだ幼い横顔の中にも凛とした表情を持つ戴帽生を拝見し、遠い昔、私自身が戴帽式で誓ったことや命と向き合う責任の重さをナースキャップから感じたことなど鮮明に思い出すことができ、私自身も戴帽生と共に感激でいっぱいでした。

戴帽生の皆様、歯科衛生士

や看護師を目指し入学した時の初心と戴帽式で誓った「誓いの詞」が、これからあるだろう様々な困難を乗り越える力になると考えます。今日のことをいつまでも忘れないでほしい。そして首尾一貫した学生生活を送ってほしい

と本戴帽式を終えて強く思いました。(看護学科教授 前山直美)



教学部だより

歯学部



歯科大学教学部学生担当部長

山田良広

歯科大 後期学生生活について

学生諸君は、8月の全国歯学体、10月の稲岡祭と大きな行事を終え、充実の秋を迎え学業とクラブ活動に一層励んでいます。歯学体では軟式庭球部が優勝するなど優秀な成績を取めました。また、稲岡祭では学生会の統率の元、天気にも恵まれ、にぎやかな学園祭となりました。特に今年は稲岡祭前日に授業参観と個別面談があり、そのために横須賀に来られた父

母の方々も多数来学され、例年以上のにぎやかさでありました。

さて、この時期は大学では入学試験があり、6年生は学士試験・1～4年生は後期本試験に備える大切な時期です。インフルエンザの流行する時期でもあります。学生諸君にはインフルエンザの予防接種を優先的に受けられるように配慮していますので、万全な体調で勉学に励めるよう健康管理にも十分注意してほしいと思います。

教学部学生担当では懸案事項である、学生ロッカーの整備・クラブ棟の使用法・喫煙場所の検討など重点的に対処しています。また、学習環境を整える目的で学生食堂のWiFi環境の整備にも着手しています。後期から来年度に向け、学生諸君が快適な学生生活を送れるよう引き続き支援していきます。

短期大学



短期大学教学部学生担当部長

林田丞太

湘南短期大学 学生の声を目安箱へ

教学部学生担当は、学生が快適にキャンパスライフを送れるよう支援することが主たる役割です。これは「学生が満足する大学」に近づける、と言い換

えることができるかもしれません。学生が大学に何を求め、どのような不満を抱いているかを迅速に知ることが大切です。そこで本年度5月に記名式の投書箱である「目安箱」を設置しました。10月30日現在まで19通の投書が寄せられました。学食、教員の対応、施設、受講態度等について真面目に要望を記載したものでした。それを受けて投書した学生から直接に話を聞き、短期間で対応可能な問題、改善には長期間を要する問題に分け、学生に見える形で対応、改善を進めています。このサイクルを回し続けることが「学生が満足する大学」への近道だと考えています。

神奈川県立歯科大学 平成25年度入学試験一覧

試験種別	区分	出願期間	試験日	合格発表
一般入学試験	1期	1/8(火)～1/21(月)	1/25(金)・1/26(土)	1/29(火)
	2期	1/30(水)～2/13(水)	2/17(日)	2/18(月)
	3期	2/19(火)～2/27(水)	3/3(日)	3/4(月)
卒業生子女入学試験 編入学試験 帰国子女入学試験 外国人留学生入学試験	2期	1/8(火)～1/21(月)	1/25(金)	1/29(火)
	3期	1/30(水)～2/13(水)	2/17(日)	2/18(月)
	4期	2/19(火)～2/27(水)	3/3(日)	3/4(月)

- ・一般1期入学試験で成績上位者に奨学金を支給します。
成績上位1～10位: 入学金を含む初年度の学費850万円を全額免除。
成績上位11～40位: 歯学教育充実費200万円を免除。
- ・一般1期入学試験は2回実施されます。2回受験しても検定料は1回分の4万円です。合格得点の高い何れかの受験日の成績で可否を判定し減免制度を適用します。
- ・卒業生子女入学試験、AO入学試験で合格され入学手続を取られた場合、奨学金として100万円を支給します(初年度納入金より同額を免除)。
- ・推薦入学試験合格者は一般1期入学試験の受験資格を与えます(希望者のみ。成績によって上記の奨学金が適用されます)。

湘南短期大学 平成25年度入学試験一覧

試験種別 【歯科衛生学科 / 看護学科共通】	出願期間 (必着)	試験日	合格発表		
一般	1/7(月)～1/18(金)	1/27(日)	1/29(火)		
試験種別 【歯科衛生学科】	エントリー期間	面談日	内定発表	出願期間 (必着)	合格発表
AO 4期	1/7(月)～3/11(月)	個別にお知らせいたします。			

※AO入試についての注意(歯科衛生学科)

- ・AO入試のエントリーには、本年度オープンキャンパス体験授業を受講してください。
- ・募集人員を超えた場合、募集を打ち切る場合があります。
- ・打ち切りがある場合は本学Webサイト<http://www.shonan.ac.jp>にてお知らせいたします。
- ・エントリー資格などの詳細は入試要項、HPでご確認ください。
- ・入試要項・パンフレットは教学部へお申してください。送料ともに無料です。

大学院

区分	定員	出願期間	試験日	合格発表	入学手続期間
Ⅱ期	約8名	1月8日(火)～2月1日(金)	2月19日(火)	2月22日(金)	2月22日(金)～3月15日(金)
Ⅲ期	若干名	2月14日(木)～3月1日(金)	3月12日(火)	3月15日(金)	3月15日(金)～3月25日(月)